

視 察 報 告 書

報告者氏名 日 本 共 産 党

おだぎり たかし

植 田 和 子

高 橋 あ き ら

い ぬ い え り

1 期 日

令和6年3月22日（金）～3月22日（金）0泊1日

3 視察地及び調査事項

（1）八木南団地 水道管（耐震）布設工事について

（2）キッコーマンアリーナ 防災備蓄及び備蓄倉庫について

4 所感等

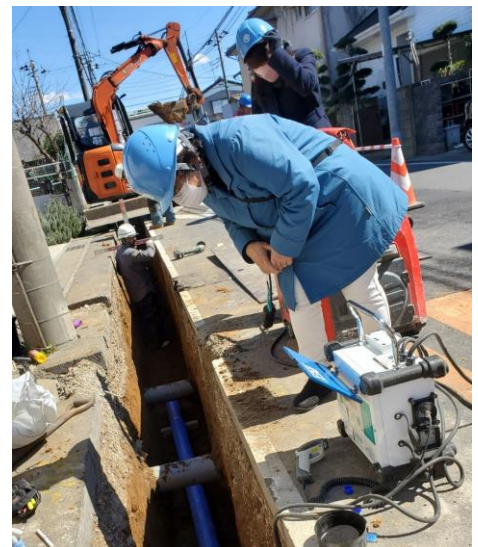
■水道管（耐震）布設工事について



直径100ミリの水道管を耐震化するため、布設工事現場を視察した。

工事現場職員の不足や技術の継承が全国的に課題とな

る下で、延長約5㍍・内径10㍍の耐震管（写真右下、青色の配管）を布設するため、鉄製からポリエチレン管へ軽量化され、かつ自動溶接機で接続ができ、技術の継承と、今後の労働力不足への取り組みの一端が確認されていた。





本市の配水管の耐震化は、浄水場から広域的に水道水を配水する主要配水管（鉄製・内径350～400ミリ）や軟弱地盤地域を優先したい深化を実施するとともに、下水道整備と一体で取り組むことで経費削減を図っている。同時に、配水管布設には、下水道管やガス管など地下埋設

管との調整、道路からの深度（道路使用状況からゆがみ等を保護するため）、配水管の起点から終点までの高低差・傾斜を調整する必要があり、特に埋設管との調整では、人力で確認する必要もある事が現場を視察し、良く分かった。

また自治体によっても、施工方法や資材料の違いがあり、市内の発災後、上下水道の補修・復旧をどのように実施するのかを、発災の場所や大きさ、市内事業者の支援量も異なることも含め、大いに想定し、議会との共有、市民への発信が必要と思われる。

工事現場ではトイレも課題となるが、写真のような軽トラックの荷台に乗せ、持ち運びできる簡易型のものが利用されており、災害時にも活躍するものと思われる。



■ 防災備蓄及び備蓄倉庫について



市内70ヶ所の避難所のうち、40ヶ所が整備された防災備蓄倉庫の拠点であるキックマンアリーナを視察した。

流山市内では避難所毎に必要な備品を必要数備蓄する方法とは異



なり、主な備蓄品をまとめて集中的に備蓄する「分散備蓄」となっている。

このことから、①賞味期限や電池の確認・点検のしやすさ、倉庫スペースの有効活用、②被災の大小に関わらず、被災が少ない備蓄倉庫から備蓄品を活用できるなどのメリットはいかじつつも、比較的重量・容積がある備蓄品の発災後の輸送体制の確保と輸送方法、

受入避難場所における調達必要数の受入れ場所確保を検討しておく必要がある。

また備蓄トイレでは、各機種でメリットが異なることから、実際、平時に使用することでメリット・デメリットを体験できる場を総合防災訓練などで検討する必要性と、個人で備えるべきトイレ対策を大いに推奨する必要性を感じた。テントによるトイレ周辺へのプライバシー対策も、自衛隊が設営したお風呂ですら強風で飛んでしまった過去の経験も踏まえ、十分な対策を想定する必要があると思われる。



備蓄倉庫は、昼間でも室内電気が確保されないと十分に機能しないことも現地を視察し分かった。停電時に、どのような非常用電源をどのように確保し、備蓄品を安全に運び出し、使用・配分できるのか、備蓄目標への達成率だけを見ていては分からないことが把握できたことは有意義だった。

今後、仮設住宅の設置場所や、設置戸数にあった敷地の広さ確保なども大いに調査・研究課題である。